

巨人になる前の小人たちへ

図書館が変わる！
学生の意識・行動が変わる！

大学図書館職員短期職員研修5班

問題提起

- 学生のことを本当にわかっているのか
やる気がない？ 図書館に来ない？
- 学生に危機感が足りないんじゃないか
- 今は独りよがり 内向きになっている
やっていることが認知されていない
- やりっぱなしになっている、学生に効果が出
ているのかわからない

キーワードは「連携」

情報リテラシー教育は大学全体で取り組むべき
→教員、職員と連携し現状の変革を

今回発表は
初年次学生がリテラシー能力を身に着ける
ための具体的な提案を行う

わたしたちの意識を変える！

**恐れず図書館の
外に出よう！
(0勝0敗よい・・・)**

教員・職員の
図書館に対する意識を変える！

**手を取り合って
学生を支える環境づくりを！**

**お互いの問題を一緒に解決できる
win-winの関係を**

活用体系表

参考 活用体系表 (例)

この体系表は、「高等教育のための情報リテラシー基準」を大学教育の場で活用するための、大学図書館を中心とした具体例として作
主に、図書館職員や教員、その他関係する職員が授業や講習会の企画・目標設定・評価等を行う際の参考とすることや、学生がセル
なお、本基準における基礎、応用、発展の3レベルは便宜的なものであり、大学ごとに設定することが適切である。

プロセス・行動指標・構成要素	基礎： 与えられたテーマ・情報源をもとにレポートを作成できる	与えられた課題について踏まえた上で自らの意 識を表現できる
1. 課題を認識する 行動指標① 課題を認識し、その解決に必要な情報の範囲を定める。 (構成要素) 1.1 自分が取り組むべき課題を識別し、その本質を把握する。 1.2 課題を解決するために必要となる情報を把握する。 1.3 必要となる情報と現時点で持っている情報を比較し、新たに収集すべき情報の範囲を定める。	<input type="checkbox"/> 課題の意図を正しく理解できる。	<input type="checkbox"/> 課題に沿ったテーマを設定できる。 <input type="checkbox"/> 自分が設定したテーマを説明できる。
2. 情報探索を計画する 行動指標② 課題を解決するために必要な情報を合法的・社会倫理的に適切に、かつ経済的・効率的に探索する計画を立てる。 (構成要素) 2.1 情報の生産と流通の過程を知る。 2.2 情報の種類や特徴を把握する。 2.3 求める情報へのアクセスの方法や入手を支援するサービスを選択する。 2.4 情報を探索する際の合法性・社会倫理への適合性および経済的合理性に留意して適切な方法を選択する。 2.5 情報の適切・効率的な探索を計画する。	<input type="checkbox"/> 学術情報がどのように生産され、流通しているかを説明できる。 <input type="checkbox"/> 一般図書・参考図書・雑誌・新聞・視聴覚メディア・インターネット等、情報・メディアの種類や特性を説明できる。 <input type="checkbox"/> 貸出・予約・レファレンスサービス等、文献入手に関わる図書館サービスを利用できる。 <input type="checkbox"/> 著作権法・個人情報保護法など、情報を探索する際の適法性に留意できる。	<input type="checkbox"/> 調査テーマに関する情報を収集できる。 <input type="checkbox"/> 課題の解決に適した情報源を選択できる。 <input type="checkbox"/> ひとつの事例に対して複数の事例を比較できる。 <input type="checkbox"/> 各種施設(博物館・機関等)の特徴を把握できる。
3. 情報入手する 行動指標③ 探索計画に基づき、課題を解決するために必要な情報入手する。 (構成要素) 3.1 探索計画に従って情報入手を支援するサービスを利用できる。 3.2 検索ツールを使って必要な情報を適切・効率的に検索する。 3.3 必要な情報の範囲に照らし合わせて適切な情報を選択する。	<input type="checkbox"/> 所属機関の図書館の蔵書検索ツール(OPAC)を利用できる。 <input type="checkbox"/> 必要な情報を適切・効率的に検索できる。	<input type="checkbox"/> 課題に応じてメディアの種類や特性を把握できる。 <input type="checkbox"/> インターネットを適切に活用できる。 <input type="checkbox"/> 検索の検索語を適切に設定できる。 <input type="checkbox"/> ブール演算子(AND・OR・NOT)や検索条件を設定できる。 <input type="checkbox"/> データベースを活用できる。

高等教育のための情報リテラシー基準2015版

<http://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503b.pdf>

連携の結果 図書館はこれができる！

- ニーズ把握
- 授業密着型
適切な時期に実施できるようカリキュラムに入れてもらう
先生と一緒に適切なガイダンスの内容を検討できる
- 認識を共有できる
高等教育のための情報リテラシー基準・活用体系表を
「共通言語」として使用する
活用体系表に基づいた目標の設定を行う
- 全学的な学生のフォロー体制ができる

連携の結果 教職員はこれができる！

- ニーズ把握
- 講義のフォロー
盗用、剽窃など、レポート書き方
- 場所としての図書館活用
広報、会場の提供、
- 大学のPRポイントとしてのメリット
- 全学的な学生のフォロー体制ができる

どのようにして意識を変える？

具体的には

- 教員に「学生向けガイダンス」を見せ体感してもらう
- 新任教員向けにオリエンテーションや
教授会でアピール実演
- キャリア支援室と手を組み、就活向けDB
- 学生相談室と問題を共有
- 先生の研究室に営業に行く
- 他部署との会議に同席し情報共有
- ポスター、チラシ
-

実施後は評価改善を続ける

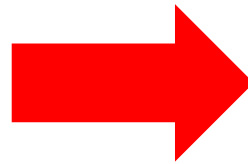
- アンケート結果分析
今は学生だけ。教職員からも採る。
分析に基づいた改善を
- 職員のスキルアップ
自分だけでなく共有。全員の底上げを。
- 持続可能な体制作り

学生の意識が変わる！

自分のリテラシー能力を客観的に把握できる
自分からフォローを求めに来る
学びへの意欲が高まる

● 学生が目指すべき将来像が見える

GIANT



...で？



大学のミッションに貢献する

高等教育のための情報リテラシー基準

- 高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版
- <http://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503b.pdf>